

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会

平成 29 年度事業に関する評価報告書

平成 30 年 10 月

目 次	頁
1. 趣旨	1
2. 調査・評価の対象と方法	2
3. 総括	3
4. 評価シート	4
参考資料	20
1. 逗子文化プラザホール 平成 29 年度自主文化事業一覧	
2. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会規則	
3. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 委員名簿	
4. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 会議日程	

1. 趣旨

逗子市文化振興条例（平成 21 年 10 月）（以下、「条例」という。）では、「文化創造の主役は市民であり、市民は文化を創造し、享受する権利を持つことを市は認識しなければならない。そのために、市は市民の文化活動を広く支援し、必要な環境を整備する使命を負っている。」（前文より）と述べ、市の責務として「市は、文化活動を行う市民、団体及び事業者と協働し、地域における人材、資源、情報等を活かして、文化の振興を図るものとする。」（第 4 条第 3 項）と定めている。この条例は、制定の際に様々な検討が重ねられた結果、文化を独立した行政分野として位置付け、その振興に取り組むべきであることを指摘し、文化における市民の権利を明文化するとともに、市の文化振興施策の基本方針を定め、市の責務をより明確に示したものである。

これに基づき、「文化振興施策を総合的かつ計画的に推進するため」に『逗子市文化振興基本計画（平成 23 年 3 月策定、平成 27 年 3 月改訂）』（以下、「基本計画」という。）を策定した（条例第 5 条）。そこで「地域の文化を市民の手で拓く」を基本方針として、6 つの「施策の柱」のもと、18 の「基本施策」を体系化している。

また、「基本計画の推進に当たって、基本計画に基づく施策、事業等が的確に実施されているかどうか等について、調査、評価等を行う組織を設置するもの」（条例第 7 条）とされ、平成 24 年度に文化振興基本計画調査・評価委員会（以下、「委員会」という。）が発足した。この組織は、「基本計画の内容及び基本計画に基づく施策、事業等の評価、見直し等について調査、検討を行い、その結果に基づき市に提言するもの」（条例第 7 条第 2 項）とされている。

平成 29 年度の評価に当たっては、評価報告書を逗子の文化振興により寄与するものとするために、調査・評価の方法を全面的に見直した。具体的には、基本計画の 6 つの「施策の柱」に沿って、それぞれの施策の柱の下に位置付けられた「基本方針」が、平成 29 年度中に実施された事業によってどの程度実現できたか、という視点から評価するようにした。また、上記の事業のうち、基本計画の上位計画である逗子市総合計画実施計画及び基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」の対象事業として位置付けられているものについては、計画上での目標を示し、達成状況について評価の中で考慮することとした。

今後、この評価報告書を踏まえ、基本計画に基づく施策や、事業がよりの確に実施され、市の文化振興施策が市民に資するものとなることを願っている。

2. 調査・評価の対象と方法

平成29年度は、評価の方法を変更し、基本計画の6つの「施策の柱」の「基本施策」の実施状況について、平成29年度中に実施された事業（以下「対象事業」という。）によってどの程度実現できたか、という視点から評価を行った。具体的には、6つの「施策の柱」毎の評価シートの様式を新たに設け、「基本施策」が掲げる目標に対して、対象事業の取組みの結果と、文化振興所管課（文化スポーツ課）の自己評価を求め、それに対する本委員会としての評価を行った。評価は、実現度合いを以下の3段階で評価した上で、意見を述べることとした。

- a. 順調である。
- b. 概ね順調である。
- c. 順調であるとみなせない。

3. 総括

平成 26 年度からの市の計画のあり方と管理（総合計画、基幹計画、個別計画の 3 層構造と、上位から下位への連携した進行管理）により沿った形で、また、評価の翌年後からの具体的な事業計画から中長期的な政策にまで、より直接的に本評価報告が活かされるように、平成 29 年度においては調査・評価の方法から全面的に見直して、文化振興施策の実施状況について、確認した。

今回の調査・評価により明らかになったのは、基本計画の 6 つの「施策の柱」や、「施策の柱」の中の基本施策において、実施していることとしていないことの差が大きいこと。十分に実施されているものもあれば、全くの未着手というものもあった。このことは、計画に沿って施策を行うという行政のあり方にも関わることで、大いに反省するとともに、今回「該当する事業なし」とした「逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展」「行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備」「近隣市町との交流・連携」については、これまで着手できなかった理由を明らかにし、現実的に、どのようであれば実施できるか、部分的な実施ならば可能か等、検討を進めてほしい。また、十分に実施されているとしたものでも、量的には十分でも、質的にどの程度充実しているかは明確にしておくべきである。特に、長く継続する事業については、そのアウトカム（成果）やインパクト（波及効果）を測ることで、今後の文化振興事業の検討に活かせる情報となり得る。

市の文化芸術活動の拠点である逗子文化プラザホール（以下「ホール」という。）の管理運営と、総合計画実施計画におけるリーディング事業でもある逗子アートフェスティバルの実施は、基本計画の推進において特に重要な事業であり、今回の調査・評価でも、基本施策の実現に寄与する部分が大きかった。

ホールは平成 26 年度から指定管理者制度を導入しており、民間の知識と経験を活かした文化事業を展開しているが、アウトリーチ活動の拡充やイベント企画講座等市民文化活動支援等、文化に触れる機会の少ない市民や、これから市民活動を行おうとする市民を対象とする事業に力を入れていることは、文化振興のすそ野を広げていく上でも評価できる。引き続き、市民のニーズを的確に捉えながら、更なる展開に努めてもらいたい。そうした中、市の財政状況の悪化から、中長期改修計画に沿った修繕・工事が十分に進められていないことは大変憂慮される。ハード面でのマイナスは利用者サービス向上等ソフトでの満足度の維持向上で補いつつも、的確な優先順位付けに基づく修繕・工事の継続に努めてもらいたい。

逗子アートフェスティバルは、文化芸術活動への市民参加・参画の点から重要な事業に成長してきており、平成 30 年度からは運営方法が変わり、より市民主導による事業に向かうことが期待される。引き続き「地域の文化を市民の手で拓く」具体例として、新たな可能性の追求や質の更なる向上に努めてもらいたい。

これらの事業を推進していくためにも、庁内の組織横断的な連携や、近隣市町、関連団体（文化施設・団体、NPO、大学等）との交流・連携体制を強化されたい。

4. 評価シート

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 平成 29 年度事業に関する評価報告書 対象事業一覧

(1) 地域文化の担い手育成	
①子どもたちの文化創造体験の拡充	
●【ホール】アート便 2017	小中学校アウトリーチ。市立小中学校全 8 校で 21 件（授業数）。児童・生徒 1,820 名参加。
●【ホール】逗子こども能	2 月 25 日（日）。小中学生 31 名参加。稽古全 21 回。前日の「お囃子コンサート」にも出演、囃子方合奏団と共演。
●【ホール】子どものための手づくり絵本講座	2 回開催 67 名参加。8 月 6 日「手づくり絵本のミニ展覧会」ギャラリーで開催。
②市民のアートリテラシーの向上	
●逗子アートフェスティバル 2017 の開催	10 月 7 日（土）～11 月 26 日（日）。来場者数 83,496 名。トリエンナーレ方式で開催。
●市民による文化事業への後援、協力	共催 1 件、協力 12 件、後援 15 件 合計 28 件。
●文化に関する講座の実施	生涯学習講座事業 128 講座（所管：市民協働課）うち、ずし楽習塾講座は 32 講座 110 回。参加者延べ 1,462 名。 各種講座事業 7 講座（現代的課題 1、地域課題 2、地域活動 5）（所管：社会教育課）参加者合計 228 名 ホールにおける講座「能楽事前講座 第二回」2 月 14 日（水）、19 日（月）2 回開催。一段目 18 名、二段目 12 名参加。（定員各 50 名）
③地域文化振興の担い手育成	
●逗子アートフェスティバル 2017 市民企画、逗子市文化祭、ボランティア活動	市民企画 33 企画。逗子市文化祭 20 企画。ボランティアは延べ 36 名、7 日間（予定は 10 日）活動。
●【ホール】若手演奏家シリーズ	9 月 10 日（日）「#5 History of Trumpet ートランペットの歴史を辿ってー」さざなみホール、96 名来場。 3 月 17 日（土）「#6 声の芸術 ー声楽×ヴァイオリン×ピアノー」なぎさホール、149 名来場。
●【ホール】ボランティアライター活動	ボランティアライター登録数 18 名。12 月 20 日～24 日「ボランティアライターイベントレポート展示会」ギャラリーで開催。
●【ホール】Re-Ce フォローアップセミナー	12 月 8 日（金）、13 日（水）。ボランティアのホールレセプション（Re-Ce）26 名から有志 19 名参加。
(2) 市民文化活動の活性化	
①市民文化活動への支援の拡充	
●【ホール】イベント企画支援講座	12 月 17 日（日）「バックステージツアー『クリスマスキッズコンサート』の舞台裏をお見せします」を開催。募集 10 名中 2 名参加。
●【ホール】手づくり絵本講座（中学生以上対象）	2 回開催 29 名参加。12 月 20 日～24 日「作品展」ギャラリーで開催。
②市民による市民のための文化振興の仕組みづくり	
●逗子アートフェスティバル実行委員会の開催	全体会 3 回、役員会 10 回、部会 9 回、キックオフミーティングなど 3 回。
③市民参画・協働型事業の充実	
●逗子アートフェスティバルの継続、市民企画の実施	2013 年のプレアートフェスティバルから、29 年度で 5 回目。市民企画 33 企画 ※前掲
●【ホール】市民企画事業/地域発信企画	11 月 12 日（日）市民企画「ムジチーレン in 逗子 スペシャルコンサート」。
●【ホール】ホールレセプション（Re-Ce）活動	ホールレセプション（Re-Ce）活動を継続実施した。
●第 2 回トモイクフェスティバル	2018 年 3 月 24 日（土）～25 日（日）に開催。事業者に加え、市民活動団体がイベントを企画、運営。
(3) 文化芸術に接する機会の拡充	
①鑑賞機会の拡充	
●【ホール】鑑賞型事業の実施	16 件実施。
②体験や参加、参画機会の充実	
●【ホール】囃子方合奏団	10 月～2 月まで全 10 回の稽古。24 名参加（定員 12 名を増員）。2 月 24 日（土）『お囃子コンサート～聴く能狂言～』で舞台発表。
●各種講座の実施	※前掲：(1) ー②「文化に関する講座の実施」
③文化芸術に触れる機会の少ない人へのアプローチ	
●【ホール】アート便 2017	4メニュー（落語、パントマイム、音楽、能）を提供。2 月 8 日（木）子育て支援センター（新規）へのアウトリーチ活動を実施。58 名（29 組）。
●【ホール】ホールオープナー 0 才からのコンサート こどもブリッツ ～小さな小さな吹奏楽～	8 月 6 日（日）。なぎさホール、261 名来場。未就学児入場可。

●【ホール】クリスマスキッズコンサート Beat Factory パーカッションアンサンブル	2月17日(日)。なぎさホール、173名来場。未就学児入場可。
(4) 文化資源の活用による地域づくり	
① 逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展 (該当する事業なし)	
—	
② 豊かな自然環境の活用	
●自然の回廊プロジェクト推進事業	「自然の回廊ウォーキング」を国保健康課「歩き方講座」と連携して実施。参加者34名。
●逗子フィルムコミッション	撮影問合せ件数142件、市内での撮影件数57件。市民エキストラ登録人数154名。
●各種講座事業(地域課題)	12月10日(日)。サードエイジ連続講座第3回「逗子の森、池子の森の変遷」。
③ 人的資源の発掘と連携	
●逗子アートフェスティバル2017におけるローカルアーティストの参加	逗子や逗子近郊で活躍するローカルアーティストの企画(8企画)。
●【ホール】子どものための手づくり絵本講座	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。
●【ホール】手づくり絵本講座(中学生以上対象)	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。
●【ホール】市民企画「ムジチーレン in 逗子 スペシャルコンサート」	逗子ゆかりの奏者たちによる弦楽アンサンブルを起用したコンサート企画。
●【ホール】逗子アートフェスティバル2017ホール連携企画まちなかアートコレクション with 逗子高校&逗子市商工会	10月4日(水)～6日(金)。ギャラリーにて120点を展示し、85名来場。そのうちの78点を市内商店44店舗に再展示。
(5) 文化情報の収集と活用	
① 情報の収集・発信	
●【ホール】ホール&ギャラリーニュースの発行	ホール独自の広報誌、年4回発行(110,000部/回)。
●【ホール】ホームページとSNSの活用	インターネットを利用した自主事業および貸館情報発信。Facebookページの「いいね!」数は500件超。前年度から100件増加(Facebookページは2011年8月開設)。
●【ホール】ホールにおける情報コーナーの設置	近隣他館の催し物や情報誌の配架。
② 情報のネットワークづくり	
●共育ポータルサイト「ナニスル」の運用	講座等の情報掲載の運用を引き続き実施。参加団体数543件。
●市民による文化事業への後援、協力 ※前掲	共催1件、協力12件、後援15件 合計28件。
③ (仮称) 逗子アーカイブスの構築	
●逗子市文化振興基本計画策定・推進会議における検討	2回開催。将来的な逗子フォト事業に組み込む方向で検討。
●逗子フォト事業	平成29年12月から運用開始。500枚程度の写真を公開。
(6) 文化振興のための環境づくり	
① 行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備 (該当する事業なし)	
—	
② 施設・整備の充実など	
●ホールにおける改修工事の実施	3件実施。
●ホール指定管理者に対するモニタリングの実施	毎月実施。
●逗子アートフェスティバル2017における逗子会館の活用	トリエンナーレ企画「アートフォリオ展」等で活用。
●【ホール】管理職による外部講座受講	公開講座シリーズ「これからのインクルーシブ社会と公立文化施設の取り組み」(神奈川県民ホール主催)を2回受講。
③ 近隣市町との交流・連携 (該当する事業なし)	
—	

施策の柱	(1) 地域文化の担い手の育成
地域の文化は市民が継承し、創造し、発展させるものと捉え、担い手を育成するために、文化への理解・関心の向上と活動への参画を促し、地域文化振興に必要な専門知識を持った市民を増やす。特に、吸収力旺盛な青少年期における文化との接触による次世代の担い手育成を図る。	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の取組みの結果

① 子どもたちの文化創造体験の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育と連携しながら、子どもたちに対する芸術に触れる機会や文化・芸術教育を充実させます。 ○ 地域において多世代との交流を通じた、地域の文化体験など、地域生活における文化接触を豊かにしていきます。 ○ ホール自主文化事業において創造体験ができる機会を充実させます。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● いずれの取組みもホール自主文化事業として実施した。 ● 学校教育と連携して行うアウトリーチは、29年度は21件（授業数）1820名となり、件数、参加者数とも増加した（28年度 16件約1,200名）。メニューについても、定番の落語と音楽にパントマイムを新たに加えた3メニューを実施し、体験の内容についてもバリエーションを持たせた。 ● 文化創造体験につながる逗子こども能は、28年度参加者数（38名）から減じたが、囃子方合奏団と共演するなど、新たな体験を取り入れた。また絵本講座は、定員を超える89名が参加し、満足度も97.3%と高かった。参加者有志からの提供により「ミニ展覧会」を実施、作品発表の場を設けたことで、文化創造の一連の流れを体験してもらうことができた。
② 市民のアートリテラシーの向上	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 逗子の伝統文化、歴史的資産はもとより、様々な文化に関する教養講座などを実施し、市民の文化に対する興味や知識を向上させます。 ○ 学ぶことと創造すること、市民協働を進めながら、生涯学習と文化振興を連携させ、幅広い視野や包容力ある人材を育みます。 ○ 団塊の世代が地域に戻り、地域文化活動に参画していきけるような機会を設定していきます。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2017 は、市民との協働により開催した。トリエンナーレ年であったため、招聘作家やローカルアーティストが参加したことで、市民が先端的なアートや地域に存在する優れたアートに触れる機会を増やし、文化芸術に対するリテラシー（基礎活用力）向上のきっかけを生み出した。 ● 市民による文化活動への市後援などは、29年度は28件となり増大した（28年度17件）。 ● 文化に関する講座は、生涯学習講座事業（市民協働課）、各種講座事業（社会教育課）のほか、ホールでも1事業が開催された。
③ 地域文化振興の担い手育成	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域において、文化事業の企画や制作、運営を担ったり、専門知識や技能を発揮したり、ボランティアやサポーターで参画したり、地域文化を推進していく人材の育成に取り組みます。 ○ 青少年や若年層の活力を積極的に取り入れます。 ○ 市民、来訪者に関わらず、市内で文化活動を行う人々の参画と参加により、交流のなかで、文化活動を活性化します。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2017 の市民企画では、33 企画のうち新規企画が7 企画となり、市民の主体的な文化活動への参加を推進した。 ● 逗子アートフェスティバル 2017 の逗子市文化祭では、音楽・舞踊・演劇の芸能部門9 団体、美術・工芸・園芸等の展示部門11 団体が参加した。 ● 逗子アートフェスティバル 2017 のボランティア活動（駅前広場での会場案内）は、天候の影響もあり、

結果	<p>28年度参加者（延べ66名）から減じたが、数年にわたり継続して参加する方もおり、将来的な文化ボランティアやボランティアリーダーとして活躍できる人材の育成につながった。ホールからも数名が登録し連携を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若手演奏家シリーズでは、「逗子コミュニティパーク」と連携し、出演の機会を得て新たな舞台経験を積むとともに、地域の方に存在をアピールし、若手演奏家の自発的な活動を促し、専門技能の発揮につながった。 ● ボランティアライターは、新たに「展示会」を実施したことで活動の充実が図れ、活躍の場を広げることができた。 ● ボランティアによるホールレセプション（Re-Ce）の活動の一環として行われた Re-Ce フォローアップセミナーは、講師を経験豊かな Re-Ce リーダー2名が務め、Re-Ce 全体での知識や技能のブラッシュアップを実現した。
----	--

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】</p> <p>子どもや若年層の文化創造体験の拡充や地域文化振興の担い手の育成については充実していた。</p>
	<p>【見直すべき点】</p> <p>引き続き取組みを継続し、地域文化の担い手育成を推進していく。</p>

総合計画、基幹計画における位置づけと目標	<p>【総合計画実施計画】</p> <p>市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、逗子アートフェスティバルが位置付けられている。</p> <p>また、目標として「2022年度（平成34年度）までに、（市民）参加企画数が30企画になっており、質の向上が図られている。」としている。</p> <p>【基幹計画】共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン</p> <p><文化振興事業></p> <p>29年度における主な事業として「逗子アートフェスティバルを開催する（トリエンナーレ方式による開催）」としている。</p> <p>また、目標として「平成30年度までに、逗子アートフェスティバルの（市民）参加企画数が28企画になっており、質の向上が図られている。」としている。</p> <p><生涯学習講座事業></p> <p>平成29年度における主な事業として「生涯学習の各種講座を開設する。ずし楽習塾を開設する」としている。</p> <p>また、目標として「平成30年度までに、生涯学習の各種講座が、115講座開設されている」としている。</p>
----------------------	---

委員会の評価	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>小中学校でのアウトリーチについては、量的には十分であるが、児童・生徒と演者とのコミュニケーション等、質的な部分で充実したものになっているか確認してほしい。</p> <p>また「逗子子ども能」や「手づくり絵本講座」は10年以上継続する事業であるので、文化振興に対する中長期的なアウトカム（成果）やインパクト（波及効果）を測る必要がある。</p> <p>逗子アートフェスティバルについては、市民企画やボランティアの参加者数が増えていることは評価でき、地域文化の担い手育成に貢献している。今後も引き続き、市民企画・ボランティアの質の向上や、多様な参加に努めてもらいたい。</p>

	<p>アートプロジェクトの企画運営については、必要なマンパワーの確保や手法の習得等に対して積極的な取組みが認められる。</p> <p>文化振興所管課以外の課が実施する文化に関する講座（市民協働課の生涯学習講座や社会教育課の各種講座事業等）については、役割分担や連携の可能性等を整理する必要がある。</p>
--	--

施策の柱	(2) 市民文化活動の活性化
市民の文化活動は、心の豊かさや充足感を得るだけでなく、活力に満ちた社会や個性豊かな地域の形成など、様々な形で地域などにも還元されるものと捉え、市民個人や団体それぞれの活動を高め、広げるとともに、文化を通じた公益的な市民活動の支援を図る。	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の事業概要	
① 市民文化活動への支援の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民に文化活動のための場と機会（時間）を提供し、市民と行政の役割を明確にした上で、市民文化活動の活性化のための協働を進めます。 ○ 文化活動をしていく上での相談や助言を行う仕組みや、支援や協働による活動の実現や拡大につながる仕組みを整えていきます。 ○ 文化事業の企画運営について、市民が専門的知識や技術の習得が可能となるよう支援します。 ○ 活動の目標や励みになる事業及び専門性をより高めていくための機会を設けるなど、支援を行います。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント企画講座では、「クリスマスキッズコンサート」の前に、調整室など通常は入場できない場所をホール舞台技術スタッフが講師役となり案内するなど、ホールの設備などへの理解を高め、将来的な文化活動の際の活用へとつなげる内容であったが、参加者数が少なかった。 ● 手づくり絵本講座（中学生以上対象）は、大人向けの内容で、28年度の2回から3回に回数を増やして実施した。講座内で作品を完成させる参加者が多く、文化活動に取り組み達成感を得る、という経験をしてもらった。
② 市民による市民のための文化振興の仕組みづくり	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人や既存の団体との連携を図りながら、プラットフォームとなる中間支援組織の育成や、文化NPOの支援などにも取り組みます。 ○ 市民自らが企画・参加し、地域文化を振興し、地域を活性化していく仕組みづくりを進めます。 ○ 世代間交流ができるような文化事業を実施します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル実行委員会は、30年度以降のあり方について検討し、現委員会は発展的解散をした上で新たな委員会を立ち上げるとともに、委員の中から発起人が出て、30年度の逗子アートフェスティバルの企画運営を行う団体を設立（逗子アートネットワーク）して、より市民自らが創るアートフェスティバルを目指すこととした。 ● 逗子アートフェスティバル2017の市民企画では、33企画のうち26企画が28年度に引き続いての参加となり、内容の充実が顕著にみられ、参加者の文化創造力の向上を実感するものが多かった。
③ 市民参画・協働型事業の充実	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の企画案、運営スタッフの市民公募などにより、市民参画・参加を促進します。 ○ 市民の企画力、運営力をより一層高めていく支援を行います。 ○ 市民主導型のホール自主文化事業を積極的に実施し、事業の充実を図ります。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル2017は、25年度（2013年）のプレアートフェスティバルから数えて5回目となり、トリエンナーレとしては2回目となった。 ● 「市民企画事業」では、逗子ゆかりのアーティストによるコンサートをベースに、ホールと企画者で内容をさらに検討し、ゲスト2名を加えることで、企画者との創作事業として実施した。 ● ホールレセプション（Re-Ce）活動では、24名の参加者が主に自主文化事業にレセプションとして参加し、その技術を磨いている。 ● 市民活動団体向けに、ワークショップを取り入れた学習メニューを実施している事業者や専門家の手法を学ぶ場を提供した。そこでの学びを活かして、市民活動団体が、第2回トモイクフェスティバルでのイベントを実施した。

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】 逗子アートフェスティバル実行委員会の、平成 30 年度に向けての組織の改変の動きは、市民自らが参画して、地域文化の振興と地域の活性化を目指す動きにつながっている。「手作り絵本講座」や「Re-Ce 活動」の継続事業については、参加者に高い評価をいただいております、同時に文化活動に参画している意識や満足度を持ってもらえる事業に成長している。</p> <p>【見直すべき点】 イベント企画支援講座については、参加者の満足度は高い一方、参加希望者が少ないことが多い。事業の内容が市民文化活動に役立つものになっているか、広報の仕方等問題がないか等見直す必要がある。</p>

委員会の評価	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>イベント企画講座等ホールによる市民文化活動支援は、始まったばかりで市民の認知度はまだ低いですが、今後の展開を期待したい。</p> <p>市民参画・協働の今日的意義を理解してもらう機会として、逗子アートフェスティバルやその他の文化活動が機能していることが認められる。特に、逗子アートフェスティバルにおける逗子アートネットワークの設立は、市民自らが文化活動に参画しようとする動きであり、市民文化活動の活性化にもつながっており、評価できる。今後の展開においては、これまで積み上げてきた市民文化活動を活かすためにも、他の市民文化団体との連携について検討してほしい。</p> <p>更には、市民文化団体間の連携、関連する所管課の連携についても推進してほしい。</p>

施策の柱	(3) 文化芸術に接する機会の拡充
<p>条例で定める、文化芸術を創造し、享受することは市民の権利であることを実現するため、すべての市民が文化芸術に触れることのできる機会を提供するように努める。特に、文化事業を企画したり、運営に参画したり、支援する機会や、文化芸術に触れることが困難な市民が気軽に接する機会の拡充を図る。</p>	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の事業概要	
① 鑑賞機会の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民ニーズにあった多彩な鑑賞型事業を実施します。 ○ 市民の企画による事業を募集、協働にて実施します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 全 16 件のうち、入場者数 500 名を超えた公演は 3 件であった。 6 月 10 日(土)「なぎさジャズコレクション 渡辺香津美 ギター・ルネッサンス in 逗子」517 名 7 月 23 日(日)「ALOHA ZUSHI! KONISHIKI バンド ハワイアンコンサート」529 名 2 月 11 日(日)「逗子落語会 三遊亭円楽・春風亭一之輔」544 名 上記の公演アンケート結果は満足度 90%を超えた。 ● 全 16 件のジャンル別内訳は、音楽関係 9、伝統文化・古典芸能 6、演劇・ミュージカル 1。
② 体験や参加、参画機会の充実	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホールにおいて、鑑賞型事業の実施に合わせ、そのテーマに沿った各種講座やワークショップを実施します。 ○ 市内公共施設などにおいて、各種講座事業を実施します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「囃子方合奏団」ワークショップは、8 月のホールオープンデーにおいて、和奏楽器に触れる公開ワークショップとして実施したのち、10 月から 2 月まで全 10 回を実施した。ワークショップの成果は 2 月 24 日(土)「お囃子コンサート～聴く能狂言」で発表し、翌日の「逗子こども能」「能狂言公演」まで一連の事業となった。参加者の年齢層も幅広く、子どもから大人まで一緒に稽古し発表をする貴重な場を創出した。
③ 文化芸術に触れる機会の少ない人へのアプローチ	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主文化事業の内容に合わせて対象や方法を工夫しながら、PR 活動を行います。 ○ 自主文化事業の実施場所をホールに限定せず、積極的にアウトリーチ事業として実施することにより、ホールに来館できない方へも文化・芸術を広めていきます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「アート便 2017」では 4 メニュー（落語、パントマイム、音楽、能）を提供。新規先として子育て支援センターへのアウトリーチ活動を行い、子育て中の方に落語を楽しんでいただいた。 ● 「ホールオープンデー 0 才からのコンサート こどもブリッツ ～小さな小さな吹奏楽～」 「クリスマスキッズコンサート Beat Factory パーカッションアンサンブル」は、未就学児から入場可能なコンサートとして開催。音楽のコンサートに参加しにくい乳幼児やその親も楽しめるものにした。

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】 鑑賞系事業、普及系事業ともにバリエーションを持たせ工夫を凝らした結果、ある程度、広い年齢層の市民に受け入れられた事業展開を実施できた。</p> <p>【見直すべき点】 一部の鑑賞系事業に、来場者満足度は高かったが、入場率が芳しくなかったものがあった。広報の仕方や、より幅広い市民ニーズの把握が課題である。</p>

<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】 目標として「2022年度（平成34年度）までに、文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90パーセントを超えている。文化プラザホールの入場者（観客）が年10万人以上になっている。」としている。</p> <p>【基幹計画】共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン 平成29年度における主な事業として「逗子文化プラザホール指定管理者によるアウトリーチ事業を実施する。」としている。</p> <p>また、目標として「平成30年度までに、アウトリーチ事業の提供メニューが多様化し、6メニューになっている。」としている。</p>
<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>ホールの自主文化事業（鑑賞系事業）について、入場率が低い事業については課題分析をきちんと行ってほしい。</p> <p>アウトリーチについては、予算的な制約のある中積極的に取り組んだことは評価でき、特に子育て支援センターで実施したことは、文化芸術に触れる機会が困難な市民に鑑賞の機会と場を提供でき、評価できる。今後は、子ども関連以外にアプローチの幅を広げることが検討されたい。</p> <p>今後、市民が文化芸術に触れる機会を増やしていくためにも、市民が自主的に行っている文化活動について、市による広報面等の更なる協力が望まれる。</p>

施策の柱	(4) 文化資源の活用による地域づくり
市内に存在する様々な歴史的資産や伝統文化、青い海や緑豊かな自然環境といった環境、逗子ゆかりの作家や芸術家、各分野の専門性や学識経験を持った市民をはじめとする全ての市民を逗子の文化資源と捉え、逗子の持つ文化の力を発揮して、個性と活力ある地域づくりを進めていく。	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の事業概要	
① 逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展	
目 標	○ 市内に残る伝統文化などの継承を支援します。 ○ 継承すべき文化の中から、どのように継承するかなど、協働により検証していきます。
取 組 みの 結 果	(該当する事業なし)
② 豊かな自然環境の活用	
目 標	○ 逗子の自然環境についての学習・保全・啓発につながる文化活動を推進します。 ○ 様々な映像作品のロケ地として利用される逗子を、より一層発信していくため、フィルムコミッション事業やロケ地観光などを促進していきます。 ○ 自然環境を活かした文化活動を推進します。
取 組 みの 結 果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自然の回廊プロジェクト推進事業」は、緊急財政対策により予算執行が休止されたため、予定していた案内板及びコースマップの印刷は行わなかったが、予算を使わずに実施できるイベント「自然の回廊ウォーキング」を開催し、啓発を図った。コースマップの配布は継続して行った。 ● 「逗子フィルムコミッション」は、撮影問合せ対応等引き続き実施した。NHK-BS ドラマ「神奈川発地域ドラマ『R134/湘南の約束』」は、湘南エリアで撮影を行ったうち、逗子では逗子海岸、小坪漁港で撮影を行った。 ● 各種講座事業（地域課題）では、サードエイジ連続講座として、ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会の大家隆之氏（野生生物調査員・樹木医）が「逗子の森・池子の森の変遷」で講義した。
③ 人的資源の発掘と連携	
目 標	○ 地域に根ざした様々な分野のアーティストや専門家を発掘します。 ○ 様々な人的資源をつなぐネットワークづくりを進めます。
取 組 みの 結 果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2017 のトリエンナーレ企画では、逗子や逗子近郊で活躍するローカルアーティストによる企画が 8 企画、池子の森の音楽祭でもローカルのミュージシャンが参加するなど、地域に根ざすアーティストの存在を広く市民に知らせることができた。 ● 手づくり絵本講座は、逗子在住の絵本作家山本省三氏が講師を務めた。山本氏には、手づくり絵本講座の前身である手づくり絵本コンクールの初回（16 年度）から関わっていただいている。 ● 市民企画「ムジチーレン in 逗子 スペシャルコンサート」は、市民である主催者が、逗子ゆかりの奏者たちによる弦楽アンサンブルのコンサートで、地元アーティストの活動を広く市民に知らせることができた。 ● 「逗子アートフェスティバル 2017 ホール連携企画まちなかアートコレクション with 逗子高校&逗子市商工会」では、ギャラリーで展示した逗子高校の絵画作品の一部を、逗子市商工会との連携により、展示終了後に市内商店や飲食店に展示し、まちなかで高校生の優れた芸術活動に触れる機会を創出した。

<p>自己評価と見直すべき点</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>【自己評価】 人的資源の発掘と連携については、継続事業のほか、逗子アートフェスティバル 2017 での展開や市民企画等で、市民との協働による人材発掘、活用ができた。</p> <p>【見直すべき点】 ①逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展については、何を歴史的資産や伝統文化とするか、定義がされていない状態である。今後、文化振興基本計画策定・推進会議等で検討する必要がある。</p>
<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、自然の回廊プロジェクトが位置付けられている。 また、目標として「2022 年度（平成 34 年度）までに、道標や説明板の設置済みコースが 100%となっている」としている。</p>
<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展については、対象とするものの定義を明確にする等課題の解決に加え、そもそもの目的や具体的な展開方法の検討を、関係する課と連携しながら進めるべきである。</p> <p>豊かな自然環境の活用については、自然の回廊プロジェクトが総合計画実施計画のリーディング事業であることもあり、予算制約の問題はあるが、今後も継続して取り組んでもらいたい。</p> <p>人的資源については、逗子アートフェスティバル等により発掘が進んできているが、それだけでは限界があるので、関連する所管課の連携や、市内の文化団体や NPO 等との協働・連携により、より幅広い形で発掘と活用を進めてほしい。そのことにより、地域の文化資源そのものへの意識の開発と向上を期待したい。</p>

施策の柱	(5) 文化情報の収集と活用
<p>情報による文化の活性化を目指し、市民だれでもが容易に市内・市外の文化情報を手に入れることができるような情報流通の仕組みを構築し、新しい情報メディアへの対応を図る。また、逗子の文化資源に関する情報として、文字情報だけでなく映像や音源などを集積して、活用できる仕組みを検討する。</p>	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の事業概要	
① 情報の収集・発信	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他市の文化施設での催しなどの情報をホール及び市民交流センターでも手軽に取得できるよう情報の収集に努めます。 ○ 各メディアに積極的に情報発信を行います。 ○ 新しいメディアを活用した情報提供の検討を行います。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 29 年度の途中からホール&ギャラリーニュースの紙面を 2 面増やして計 6 面とし、催事情報のほか情報発信ボランティアや Re-Ce スキルアップセミナーの活動内容を掲載する等して、より読者に興味を持ってもらえるような紙面づくりに注力した。 ● ホール自主事業について、広報ずし・子育てわくわくメールマガジン・ポータルサイト「えがお」(市)のほか、マグカルカレンダー(県情報誌)、イベントバンク(情報配信サイト)からも情報発信を行った。 ● ホールに近隣他館の催し物や情報誌を配架した。 ● 市役所のホール用ラック、市内掲示板、PR-BOX、交流センターラックの活用で情報発信をした。
② 情報のネットワークづくり	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際的な文化交流なども視野に入れ、近隣市町などの公共ホール、劇場、美術館、アートイベントなどとの連携を模索します。 ○ 市内の文化活動団体の交流支援をしていきます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 共育ポータルサイト「ナニスル」を引き続き運用した。29 年度末現在参加団体数 543 件(28 年度末 445 件)。
③ (仮称) 逗子アーカイブスの構築	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 点在する文化資源情報の収集・整理を進めるための基盤づくり(収集・整理に必要な知識や情報の蓄積など)を、市民と協働で行います。 ○ 文化資源情報の収集・整理の方法について検討します。 ○ 文化資源情報を整理し、将来的にはデジタル化、アーカイブ化により、市民が活用しやすい環境づくりにつなげます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● (仮称) 逗子アーカイブスは、逗子市文化振興基本計画策定・推進会議で検討し、平成 29 年 12 月から運用の逗子フォト事業(所管課:企画課)に将来的に組み込む形で引き続き検討していくこととした。 ● 逗子フォト事業は、市保管の写真約 500 枚を公開した。

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】 ホール自主文化事業の既存の広報については、誌面の拡大や内容の充実等改善が図れた。</p>

	<p>共育ポータルサイト「ナニスル」を引き続き運用し情報のネットワークを構築している。</p> <p>【見直すべき点】 ホール自主文化事業の、ホームページや SNS を活用した発信の拡大がまだ十分でないので、今後改善をしていく。 (仮称) 逗子アーカイブスは、ようやく端緒をつけたが、まだ市保有の写真に留まり、市民が保有する情報等のアーカイブをどのように進めていくかが課題である。</p>
<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、共育ネットワーク構築事業が位置付けられている。 また、目標として「2022 年度（平成 34 年度）までに、子どもを対象にした『共育』の講座に参加する子どもが年間延べ 2,000 人になっている」「『共育』に関するポータルサイトに参加している団体が 200 団体になっている」「生涯学習グループ・サークルの届出（登録）が 250 件になっている」「生涯学習関連情報の窓口が一本化されている」としている。</p> <p>【基幹計画】共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン <共育ネットワーク構築事業> 平成 29 年度における主な事業として「共育ネットワークシステムを構築、運営する」「子ども対象の学習メニューを検討する」としている。 また、目標として「平成 30 年度までに、『共育』に関する講座等の情報を一括するシステムが運用されている」としている。</p>
<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>文化情報の収集と活用は、充実した豊かな暮らしを望む市民へのサービスとして重要なもので、活性化に向けた広報が展開されている。ただし、市内向けの紙媒体での情報発信は順調であるが、ホームページや SNS の活用は十分とは言えない。今後、ホールを拠点とした文化情報の発信を、市民に分かりやすい方法で行ってほしい。</p> <p>情報のネットワークづくりについては、共育ネットワークは構築・運営されているが、市内全ての共育に関連する講座等の情報を網羅しているか、国際文化交流や市民文化活動等のネットワークの構築・活性化にどの程度寄与しているか等、把握し、推進していく必要がある。</p> <p>(仮称) 逗子アーカイブスの構築については、逗子フォト事業という形でようやく端緒についたところであるが、目的や手法についての課題整理や、関連する所管課の調整を、引き続き行ってほしい。</p>

施策の柱	(6) 文化振興のための環境づくり
近隣市町などとの連携を視野に入れ、行政における推進体制の整備を行うとともに、ホールをはじめとする既存の施設の維持管理に努め、市民による自主的かつ主体的な文化活動が行える環境づくりを目指す。	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の事業概要	
① 行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備	
目標	○ 文化振興所管課を中心として、関係部署との協力・連携を強化します。 ○ 文化を軸とした、行政の一体的、組織横断的な推進体制の確立を目指します。
取り組みの結果	(該当する事業なし)
② 施設・設備の充実など	
目標	○ ホールの管理運営について、多くの市民の意見を取り入れながら、改善を図ります。 ○ バリアフリーやユニバーサルデザインなど、誰もが利用しやすい環境づくりのため、施設や設備の計画的な修繕・改修に努めます。 ○ まちなかに点在する空きスペースや休眠中の市の施設などの情報収集・発信に努めます。
取り組みの結果	● ホールの平成 29 年度の貸館利用者満足度は「とても満足」「満足」を合わせて 81.0%であった。 ● ホールの中長期的改修計画に基づく工事を優先順位の高いものから 3 件実施した。 ● ホール指定管理者に対するモニタリングを毎月実施した。 ● 逗子アートフェスティバル 2017 のトリエンナーレ企画（アーティスト作品展示、「アートフォリオ展」等）で、使用されていなかった市の施設である逗子会館を、会場として使用した。 ● ホール指定管理者管理職が、「これからのインクルーシブ社会と公立文化施設の取り組み」講座を受講し、色使いに配慮したユニバーサルデザインや言葉の地図といった、障がい者対応の基礎的知識を学び、ホール施設内サインのアップデート等に活用した。
③ 近隣市町との交流・連携	
目標	○ 文化プラザが地域の文化活動、創造的活動の拠点となり、他の近隣市町との交流・連携を進めます。
取り組みの結果	(該当する事業なし)

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	【自己評価】ホール運営については、貸館利用者満足度は高水準を維持した。また、障がい者対応に向けて知識の習得をホール管理者が行い、施設のバリアフリー化に努めた。ホールの維持管理については、市の厳しい財政状況に伴い、中長期的改修計画通りの予算措置は困難であり、優先順位の高い工事から実施せざるを得ない。

	<p>【見直すべき点】文化を軸とした、行政の一体的、組織横断的な推進体制の確立は、恒常的に整備するのは困難と思われる。個別の事業等での連携、協力を積極的に進める方向で実施していく。</p>
--	--

<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】 目標として「2022年度（平成34年度）までに、ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75パーセントになっている。」としている。</p> <p>【基幹計画】共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン 平成29年度における主な事業として「中長期的改修計画に基づいた施設の改修修繕を実施する。」としている。</p> <p>また、目標として「平成30年度までに、中長期計画に基づいた施設の改修工事を実施する。」としている。</p>
<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>文化芸術基本法改正にも努力義務としてあげられているように、行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備はいま強く求められている。個別の事業等からでも取り組める部分から始めるべきである。またそれにより、文化振興のための環境づくりの具体的な指針の作成も進めてほしい。</p> <p>ホールの維持管理については、財政上の問題が大きく影響するが、利用者サービス等ソフト面での対応により利用者の満足度を維持又は向上させる工夫が求められる。一方、まちなかの空きスペースや休眠中の市の施設の活用については、逗子アートフェスティバルでの逗子会館の活用のように、市民との協働により少しずつでも進めることが望まれる。</p> <p>近隣市町との交流・連携については、将来的なホールの大規模改修時の協力も視野に置き、可能な部分から進めるべきである。</p>

参考資料

1. 逗子文化プラザホール 平成 29 年度自主文化事業一覧

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象/定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考 [チケット販売枚数(前月末時点)]
鑑賞	なぎさジャズコレクション 渡辺香津美 ギター・ルネッサンス in 逗子	主催	6月10日(土) 16:00開演	4月2日(日)	なぎさホール	一般/554名	全席指定 3,500円	517名(93.3%)	*未就学児入場不可
創造支援	絵本作家山本省三さんと一緒に絵本を作ろう2017 子どものための手作り絵本講座	主催	7月8・15・22日(土) ①9:30②13:00	5月14日(日)	市民交流センター	小学生以上/各回 35名	参加費 1,500円	①33名(94.3%) ②34名(97.1%)	[最終応募数 ①45名 ②44名 当日キャンセルあり] *小学2年生までは保護者同伴
	絵本作家山本省三さんと一緒に絵本を作ろう2017 絵本作家に学ぶ!手作り絵本講座	主催	11月25日(土) 12月2・16日(土) 13:30~15:00	7月1日(土)	市民交流センター	中学生以上/35名	参加費 1,500円	29名(82.9%)	
鑑賞	なぎさプラスブリステンコンサート第13回	主催	7月3日(月) 19:00開演	4月2日(日)	なぎさホール	一般/552名	全席指定 一般4,000円 高校生2,500円 小中学生1,000円	448名(81.2%)	*未就学児入場不可
鑑賞	ALOHA ZUSHI !KONISHIKI バンド ハワイアンコンサート	主催	7月23日(日) 15:00開演	4月9日(日)	なぎさホール	一般/538名	全席指定 おとな(大学生以上) 2,500円 中高生1,000円 こども(0才~小学生) 500円	529名(98.3%)	[チケット完売] *0才からチケット必要
	逗子マルシェ ハワイアン特集	連携	7月23日(日)	-	フェスティバルパーク	どなたでも	-	-	「逗子のマルシェ」と連携したハワイ関連のショップ展開(9店舗+3組のゲストアーティスト)
鑑賞	ホールオープンデー 0才からのコンサート こどもブリッツ~小さな小さな吹奏楽~	主催	8月6日(日) 11:00開演	5月7日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席指定 おとな(中学生以上) 1,000円 こども(小学生以下) 500円	261名(46.8%)	*0才からチケット必要
創造支援	ホールオープンデー【楽器体験】 お囃子公開ワークショップ 『小鼓』・『太鼓』を体験しよう!	主催	8月6日(日) 14:00~15:00	7月9日(日)	なぎさホール	小学生以上/10名	無料	14名(140.0%)	[見学者15名]
創造支援	ホールオープンデー 手作り絵本のミニ展覧会	主催	8月6日(日) 12:00~17:00	-	なぎさホール ホワイエ	どなたでも	無料	300名	*なぎさホールのチケットをお持ちのお客様は、公演開場時にも観覧可

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象/定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考 [チケット販売枚数(前月末時点)]
鑑賞	ホールオープナー 乙女文楽公演 『義経千本桜』 道行初音旅	主催	8月6日(日) 13:00開演	5月7日(日)	さざなみホール	どなたでも/60名	全席自由 おとな(中学生以上) 1,000円 こども(小学生以下) 500円	47名(78.3%)	*0才からチケット必要
			8月6日(日) 16:00開演			小学生以上/60名	全席自由 おとな(中学生以上) 1,000円 こども(小学生)500円	42名(70.0%)	*未就学児入場不可
創造支援	ホールオープナー 白戸さんと作ろう!新聞紙で作る素敵なエコバッグ	主催	8月6日(日) ①11:30~13:30 ②15:00~16:00	6月4日(日)	ギャラリー	①中学生以上/15名 ②小学生以下/10名	参加費 ①1,000円 ②500円	①17名(113.0%) ②9名(90.0%)	[応募者数①17名、②10名] *②は小学2年生までは保護者同伴
創造支援	ホールオープナー 白戸さんのエコバッグ作品展示	主催	8月2日(水) ~6日(日)	-	ギャラリー	どなたでも	無料	240名	
	ホールオープナー 囃子方から知る能狂言パネル展示								*逗子市『能面友の会』の能面展示を含む
鑑賞	That's が~まるちょぼ SHOW! +ロッケンロールペンギン	提携(共催)	9月9日(土) 14:00開演	6月4日(日)	なぎさホール	一般/540名	全席指定 4,500円	421名(78.0%)	*4才未満入場不可
市民協働	逗子文化プラザホール 若手演奏家シリーズ#5 History of Trumpet - トランペットの歴史を辿って -	主催	9月10日(日) 14:00開演	7月9日(日)	さざなみホール	一般/120名	全席自由 1,000円	96名(80.0%)	*未就学児入場不可
鑑賞	平田耕治 TANGO CONCERT プレトーク付	主催	9月24日(日) 15:00開演	6月18日(日)	なぎさホール	一般/552名	全席指定 2,800円	369名(66.8%) (プレトーク92名)	*プレトーク 13:30開演 無料 公演チケットをお持ちの方が対象 *未就学児入場不可
鑑賞	さざなみ亭落語会 三遊亭わん丈 &みんなで創る落語会	主催	10月9日(月・祝) 14:00開演	7月9日(日)	さざなみホール	一般/100名	全席自由 1,500円	87名(87.0%)	*未就学児入場不可 *ワークショップ付
市民協働	徳永桃子/徳永洋明 逗子市民まつりステージ出演	連携	10月15日(日) 13:25~13:45	-	第一運動公園	どなたでも	無料	45名	*徳永桃子は11月12日公演のソリスト *当日雨天
	ZAF2017 連携企画 市民企画事業【地域発信企画】 ムジチーレン in 逗子 スペシャルコンサート	主催	11月12日(日) 14:00開演	8月20日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席指定 一般3,000円 高校生以下1,500円	218名(39.1%)	*未就学児入場不可

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象/定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考 [チケット販売枚数(前月末時点)]
市民協働	逗子コミュニティパーク 「大人の休日」ステージ出演	連携	11月5日(日) 13:00 出演	-	亀岡八幡宮	どなたでも	無料	-	*若手演奏家シリーズ#6の出演者が出演
	逗子文化プラザホール 若手演奏家シリーズ#6 声の芸術 - 声楽×ヴァイオリン×ピアノ -	主催	2018年 3月17日(土) 14:00 開演	12月3日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席自由 1,000円	149名 (26.7%)	*未就学児入場不可
市民協働	ZAF2017 連携企画 逗子パフォーマーズフェスタ	主催	11月19日 (日) 14:00 開演	10月1日(日)	さざなみホール	一般/120名	全席自由 500円	98名 (81.7%)	*7月1日より出演者募集 *応募総数8件 選考により6組出演決定
市民協働	市民企画事業【創造支援企画】 金子三勇士 ピアノ・リサイタル ～バルトーク ピアノ・ソナタへの道～	共催	12月3日(日) 14:00 開演	9月4日(月)	なぎさホール	どなたでも/558名	全席自由 一般3,000円 高校生以下1,000円 障害をお持ちの方 2,500円	322名 (57.7%)	*3才からチケット必要
鑑賞	クリスマスキッズコンサート Beat Factory パーカッションアンサンブル	主催	12月17日 (日) 14:00 開演	9月17日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席指定 おとな(中学生以上) 1,500円 こども(小学生以下) 500円	173名 (31.0%)	*0才からチケット必要
鑑賞	宮本笑里 10周年記念リサイタルツアー 2017～2018 amour	主催	2018年 1月14日(日) 14:00 開演	10月1日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席指定 一般3,500円 高校生以下2,000円	391名 (70.1%)	*未就学児入場不可
市民協働	どう踊る? 『なぎさのたいよう ～逗子まち Dancing～』 コンテスト	主催	2018年 1月28日(日) 13:30 開演	12月3日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席自由 無料	421名 (75.4%)	*なぎさ隊2名 *8チーム計124名出場
鑑賞	逗子落語会 三遊亭円楽・春風亭一之輔	主催	2018年 2月11日(日) 18:00 開演	11月5日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席指定 一般3,500円 高校生以下2,000円	545名 (97.7%)	[チケット完売] *未就学児入場不可
鑑賞	能楽事前講座2回 一段目/二段目	主催	2018年 ①2月14日 (水) ②2月19日 (月)	11月26日(日)	さざなみホール	一般/50名	全席自由 1,500円	①18名 (36.0%) ②12名 (24.0%)	*未就学児入場不可
普及	逗子子ども能2017	主催	稽古 5月～ 2018年2月	5月14日(日) 募集締切	なぎさホール さざなみホール	市内小中学生/30名	参加費 8,000円	31名 (103.3%)	*稽古 全22回 (2月7日の交流センターでの稽古1回追加)
	逗子子ども能2017 発表会	主催	2018年 2月25日(日) 10:30 開演	-	なぎさホール	どなたでも/500名	全席自由 無料	205名 (41.0%)	
鑑賞	能狂言公演	主催	2018年 2月25日(日) 15:00 開演	11月26日(日)	なぎさホール	一般/516名	全席指定 一般3,500円 小中学生1,000円	308名 (59.7%)	*未就学児入場不可

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象/定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考 [チケット販売枚数(前月末時点)]
普及	囃子方合奏団	主催	稽古 10月～ 2018年2月	9月10日(日) 募集締切	なぎさホール さざなみホール	小学生以上/ 各楽器につき3名	参加費 8,000円	24名(200.0%)	*定員12名のところ増員 *稽古全10回(うち合同稽古2回) *2名途中キャンセル
鑑賞	逗子和奏楽会 お囃子コンサート ～聴く能狂言)	主催	2018年 2月24日(土) 13:00開演	11月26日(日)	なぎさホール	一般/481名	全席指定 おとな(中学生以上) 1,500円 こども(小学生以下) 500円	164名(34.1%)	*囃子方合奏団とプロとの能舞台における 共演を含む *記録撮影用つぶし席を多めに確保
鑑賞	読響アンサンブル 木管五重奏の響き	主催	2018年 3月11日(日) 14:00開演	12月3日(日)	なぎさホール	一般/558名	全席指定 一般3,500円 高校生以下2,000円	229名(41.0%)	*未就学児入場不可
創造支援	Re-Ce フォローアップセミナー	主催	①12月8日 (金) ②12月13日 (水) 10:00～11: 30	-	なぎさホール	Re-Ce メンバー	参加費 無料	①9名(34.6%) ②10名(38.5%)	*Re-Ce リーダーによる自主講座 *平成29年度登録者数26名
市民協働	イベント企画支援講座 バックステージツアー 『クリスマススキズコンサート』の舞台裏を お見せします。	主催	12月17日 (日) 9:00～13:00	10月15日(日)	なぎさホール バックステージ	高校生以上/10名	参加費 1,500円	2名(20.0%)	
創造支援	ボランティアライター イベントレポート展示会	主催	12月20日 (水)～24日 (日)	-	ギャラリー	どなたでも	無料	245名	*昨年度の養成講座を受講した ボランティアライターの成果発表
普及	アート便2017	主催	9月～ 2018年3月 開催	6月23日(金) 募集締切	市あ内各学校他	小中学生他	無料	① 65名 ②① 170名 ② 91名	落語(三遊亭わん丈) ①9月8日(金)沼間小学校(6年) ⑱2018年2月8日(木)子育て支援センター ⑲2018年3月2日(金)沼間中学校(3年) ⑳㉑2018年3月2日(金)久木中学校(3年) ㉒2018年3月13日(火)沼間中学校(1年) パントマイム(ふくろうじ) ②9月14日(木)逗子小学校(3年) ③10月13日(金)逗子小学校(6年) ④11月10日(金)逗子小学校(4年) ⑤11月29日(水)逗子小学校(5年) ⑧⑨12月6日(水)久木小学校(4年) ⑩⑪12月8日(金)久木小学校(3年) ⑫12月11日(月)小坪小学校(5年) ⑭～⑰2018年1月22日(月)逗子中学校(1・2年) 音楽(ブリッツ フィルハーモニック ウィンズ) ⑥11月30日(木)沼間小学校(3年) ⑦11月30日(木)池子小学校(1～3年) ⑬12月18日(月)小坪小学校(1年)

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象/定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考 [チケット販売枚数(前月末時点)]
市民協働	第2回 返子トモイクフェスティバル	提携(共催)	2018年 3月24日(土) ～25日(日)	-	なぎさホール さざなみホール 市民交流センター 他	-	-	1,657名 (ホール来場者数)	<p>■3月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぎさホール / 絵本と実写映像で知る月での生活「もしも月でくらしたら」 ・なぎさホール / 親子で参加する0歳からのリトミックコンサート ・さざなみホール / コドモーション(CGアニメ) ・ギャラリー / ぼこぼこ海とへにやらら山のなかまたち with ワークショップ(～3月25日) ・市民交流センター / 返子おもちゃの図書館 他 <p>■3月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぎさホール / Music Fair 2018 ・さざなみホール / なっちゃんの劇場型紙芝居 with 舞と旋律「日本の神さま～太陽の神・アマテラスの宿題～」 ・市民交流センター / あそボラ de あしたへ 他 <p>■他、フェスティバルパークにてみどりの市庭(ワークショップ等)、また返子小学校校庭にてトモイク自転車教室を開催</p>
創造支援	手作り絵本のミニ展覧会	主催	12月20日 (水)～24日 (日)	-	ギャラリー	どなたでも	無料	245名	*今年度の中学生以上向け絵本講座参加者の作品を対象とする
市民協働	ZAF2017 キックオフミーティング	提携(共催)	9月15日(金) 18:30～20:30	-	さざなみホール	どなたでも/ 120名	無料	100名 (83.3%)	*ZAF 実行委員会との協働事業
市民協働	ZAF2017 ホール連携企画 カオ・かお・カオス 制作ワークショップ	主催	9月18日(月・祝) 11:00～17:00	-	ギャラリー	どなたでも	無料	65名	[ワークショップ参加者52名] *入場者数は保護者、見学者含む
市民協働	ZAF2017 ホール連携企画 まちなかアートコレクション with 返子 高校&返子市商工会	主催	10月4日(水) ～6日(金)	-	ギャラリー	どなたでも	無料	85名	*返子高校、返子市商工会との協働事業 *ギャラリー展示された120点のうち、計78点を市内商店44店舗内に拡散・再展示
市民協働	ZAF2017 ホール連携企画 Meet the Art @ the Gallery ～ZAF オフィシャル作品～ カオ・かお・カオス 展示	主催	10月7日(土) ～10日(火)	-	ギャラリー	どなたでも	無料	370名	*地域アーティスト田中たまと市民との協働事業 *左記の期日以降も適宜(ギャラリーの空き日等)展示予定
市民協働	ZAF2017 蟲ヲ聴ク 枯山水サラウンディング 蟲聴きの会	提携(共催)	10月7日(土) 16:00開演	当日販売	さざなみホール	どなたでも/ 120名	全席自由 1,000円 小学生以下無料	75名 (62.5%)	*ZAF 実行委員会との協働事業

2. 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、逗子市文化振興条例(平成21年逗子市条例第15号)第7条第1項の規定に基づき、逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会(以下「委員会」という。)を設置し、その運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査及び評価を行い、その結果を教育長に提言する。

- (1) 逗子市文化振興基本計画(以下「基本計画」という。)における施策に関する適切な実施に関すること。
- (2) その他基本計画に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 公募による市民
 - (2) 学識経験を有する者
 - (3) その他教育長が特に必要であると認める者
- 2 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、専門的事項について学識を有する者、市職員その他の者に対し、その出席を求めて意見又は説明を聴くことができるほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、文化スポーツ課において処理する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

(招集の特例)

- 2 委員会の最初の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

3. 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 名簿

役職	委員氏名	団体名、所属等
委員長	伊藤 裕夫	学識経験者（元富山大学芸術文化学部教授）
副委員長	富岡 幸一郎	学識経験者（鎌倉文学館館長）
	山崎 稔恵	学識経験者（関東学院大学教授）
	奥野 花代子	（市民）

（敬称略）

4. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 会議日程

第1回 会議

開催日時：平成30年6月19日（火）午前10時～午前11時25分

開催場所：市役所 第二会議室

出席委員：伊藤裕夫委員長、富岡幸一郎副委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員

議題：（1）平成29年度事業に関する評価の対象、方法について
（2）平成30年度文化振興事業について
（3）その他

第2回 会議

開催日時：平成30年8月16日（木）午後2時～午後4時25分

開催場所：市役所 第六会議室

出席委員：伊藤裕夫委員長、富岡幸一郎副委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員

議題：（1）平成29年度事業に関する評価について
（2）その他

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会
平成 29 年度事業に関する評価報告書

発行 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会
発行日 2018 年（平成 30 年）10 月
編集 逗子市市民協働部文化スポーツ課
〒249-8686 神奈川県逗子市逗子 5-2-16
TEL: 046-873-1111 FAX: 046-873-4520
E-mail: bunkasports@city.zushi.lg.jp